



報道関係者各位

2018年7月25日  
青森県立保健大学

## ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の共催 (学生のボランティア活動支援と単位認定)

### I. ケア付きねぶたじょっぱり隊について

ノーマライゼーションの思想を地域に根付かせたいとの考えから、障害や年齢の枠を取り払い、「私が主役・みんなが主役」をスローガンに、全国の障害をお持ちの方や高齢者の皆さんが、日本の代表のお祭り「青森ねぶた」に参加できるようボランティアが支援する取組です。今年度で第23回を迎えます。

主催 ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会

事務局 多世代交流型複合施設ヴァンピュール南青森(社会福祉法人 宏仁会)

開催日程 8月2日(木) 参加者受入れ、8月3日(金) 出陣、8月4日(土) 見送り

集合場所 出陣前 県民福祉プラザ 出陣後 青い森公園

### II. 本学の協力内容

学生ボランティア98名及び教職員ボランティア25名が参加し、障害のある方、高齢者の参加を支援するボランティアとして、主に、運行班、設営班、備品班、食料班を担当します。実行委員会のボランティア募集人数200名のうち、半数以上を本学のボランティア参加者が占めます。

### III. 地域貢献を通じた教育の場として

教職員12名から構成される委員会が、ボランティア参加する学生を対象に、ボランティア養成講座、オリエンテーション、活動を振り返る会を開催し、学生の学外における地域貢献・ボランティア活動を支援します。

学生が、将来、保健医療福祉栄養の専門職に就く者として、学外でのボランティア活動を通じ、人間性を深めたり、各々の専門分野における新しい考え方などを学び、自分の考えをまとめることで専門性を高めることが期待されており、学修の成果については、単位認定も行っています。

### IV. 第1回ボランティア養成講座 出席学生の感想(6月20日開催、一部紹介)

- ・「ボランティアという言葉の意味や4つの性格、迷惑なボランティア、ボランティアの善・偽善ということについて学んだ。」
- ・「ボランティアは自発性があるからこそ行っていることがボランティアであるということが分かった。」
- ・「ボランティアは必ずしも感謝されるものではないというのは実際にも経験があったのでとても納得した。」
- ・「動かぬ「善」より、動く「偽善」の方が助けを必要としている人にとっては「利」になるというのが印象的だった。」
- ・「ボランティアを通して自分の仕事に責任を持ち、他の人の役に立ちたいと思った。また、ボランティアで自分も成長したい。そして、楽しみたいと思った。」
- ・「障害者の方とのふれあいを大事にして、将来看護師として患者さんと接する上で重要なことを学びたいです。」

問い合わせ\*\*\*\*\*

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館間瀬58-1

TEL:017-765-4085 FAX:017-765-2021

担当: ケア付きねぶた推進委員会委員長 吉池 信男

事務局地域連携推進課 伊藤 彩子

\*\*\*\*\*